



「不屈」
No.585付録
高知版No.430
2023.3.16
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部
発行責任者一
森岡 幸一
TEL・FAX
088-841-0075

檻の中のライオン講演会in高知

「建国記念の日」に反対する

高知県民集会

「建国記念の日」は、戦後廃止されていた「紀元節」を復活させる狙いで



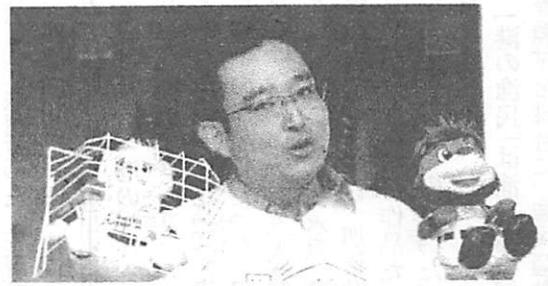
170人が参加した人権啓発センターでの集会云

制定された祝日です。1966年、多くの反対を押し切って祝日法が改正されて施行されました。

高知県では翌年から毎年反対の集会が開かれ、8年前からは2つの団体が合同して実行委員会を作り取り組んできました。

この二年間、コロナ感染拡大の影響で中止してきましたが、今年は2月11日午前、人権啓発センターを会場に開催し、170人が参加しました。

講師は弁護士の大樹 さん、演題は「今、憲法はどう考える？」。棟さんは



権力者をライオンに、権力者を制限する憲法を檻（おり）に見立てて憲法を判りやすく話し、これまで全国で650回以上の講演をおこなっています。クイズ形式の質問や人形を使った解説など、2時間を超える熱弁に大きな賛同が寄せられました。紙芝居、絵本、最新刊の書籍、Tシャツなどのグッズも販売され好評でした。講演の要旨を紹介しま

国民は憲法を守らねばならないか。憲法99条で「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う」と書いてある。国民は法律を守らなければならぬが、憲法を守る義務はない。権力者はライオンのように檻の中へ入れて縛らなければならぬ。国民はみんな同じ人間として天から与えられた人権を持っている。憲法11条「国民はすべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる」。憲法97条は憲法を「最高法規」と規定（以下条文は省略）。ライオンに政治を任せるが、檻を作るのも選ぶのも私たちが（憲法15条）。ライオンが勝手に戦争を始めないように縛る（憲法9条）。ライオンに邪魔されずに放つ

ておいてもらう自由権として、思想良心の自由（憲法19条）、信教の自由（憲法20条）、表現の自由（憲法21条）、学問の自由（憲法23条）、職業選択の自由（憲法22条）、人身の自由（憲法18条、31条、33、39条）、婚姻の自由（憲法24条）などの基本的人権が列記されている。又、ライオンに助けてもらう社会権としての基本的人権が生存権（憲法25条）、教育を受ける権利（憲法26条）、勤労権（憲法27条）、労働基本権（憲法28条）などである。

今、ライオンが檻の外に出ている。憲法という檻を守らせることが必要だ。人間らしく生きる権利は多数決でも奪ってはいけないものだ。この素晴らしい日本国憲法を学び、考え、意見を述べ、理性的な行動をすること、政治に関心を持ち選挙で投票することが大切だ。

（徳弘嘉孝）

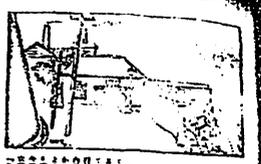
故猪野 睦氏 作品

埋もれてきた群像より

「文学案内」の周辺

『文学案内』は一九三五年七月に貴司山治によって創刊され、三七年四月まで全二十二号をだして廃刊となった。これも日中戦争前夜につぶされた雑誌だった。貴司山治は一九三一年十一月末から十二月はじめにかけて、高知の「プロレタリア文学と映画の夕」に講師として江口煥、池田寿夫と来高した作家だった。面倒見のいい作家で、それ以降なにかと高知とかかわりが深かった。

『文学案内』は貴司山治が、プロレタリア文学の作家、評論家よりどころとして創刊した雑誌だった。『詩精神』を新井徹がプロレタリア詩人たちの新しいよりどころとして柔軟な結果をめざし、新しいかき手と詩の方法をさぐっていったように、『文学案内』もよりどころをつくり、時代に抗する新しい文学とかき手を掘り起こしていった。



港の漁民
佐野 睦 一 郎

「文学案内」一九三五年十月号に載った佐野 睦 一 郎の「港の漁民」

ます。仇らく者の立場にたつ文学——勤労大衆に愛され、親しまれ、その生活の友となり、向上発展の歯車となる文学が創り出されなければならぬ。で始まっており、フアンズムから文学を守り、新しいかき手を育てようとする雑誌だった。創刊雑誌の質は高かった。創刊号から名のうれた島木健作、中野重治らの作品をのせていくが新人発掘にも力をそそいだ。そこへ登場してきたのが、高知関係では佐野 睦 一 郎であり、広海大治であり、大江鉄鷹だった。佐野 睦 一 郎は創刊から四カ月目、五月目目の一九三五年十月、十一月号に、「港の漁民」をかいた。かねてからかきたいとあためてきた高知の漁民騒動の作品化だった。目次では「新鋭作家の五大篇」として扱われた。徳永直、藤森成吉、島木健作、加賀歌二と肩をならべた作品だった。作家としての登場だった。

「港の漁民」は浦戸湾の御豊瀬村を舞台に、漁民騒動

前夜の機船底曳きに追われる一本釣り零細漁民の海上での抗争も入れ、機船主もまた、たがいに喰いつぶしあつて没落していく資本の姿をかいた。そして浦戸湾を巡る航船にのり高知市へ魚の行商にでかける貧しい漁村の女たちを、高知の風俗、風景を背景にかきあげていった新鋭作家の力量をみせる作品だった。

そして三六年十二月号には被差別部落の少年が同級生、教師、校長とたたかいて、叔父の言葉をうけついで部落にのこる姿を、その日常とともにかきあげた。十二月号のトップをかざるにふさわしい作品だった。

『文学案内』は二年たらずの間に、ゴリキイ、魯迅たちの死を悼む特集、朝鮮の「プロレタリア作家李箕永の小説「故郷」の訳載をはじめなど図太い編輯(へんしゅう)をした。朝鮮・台湾・中国新鋭作家集などによる作品紹介も「文学案内」の本領ともいべきだった。

貴司山治は一九三七年一月末に再々検挙され一年間拘留された。その三カ月後に『文学案内』は廃刊となった。その最終号に遠地輝武は「編輯室だより」をかき、貴司山治の検挙について「本誌の主筆者であり中心的な編輯経営者である貴司山治君の身辺に若干の変動が起り、甚だ面倒な状態におかれました。すなはち、ある外的事情のために文学案内社は解散の危機に当面したのであります」としかかけなかった。検挙の事実をかけないところまで検閲は強化されていた。貴司山治ができてきたときは、もう日中戦争時代だった。

この雑誌を創刊したいと思

「港の漁民」は浦戸湾の御豊瀬村を舞台に、漁民騒動

前夜の機船底曳きに追われる一本釣り零細漁民の海上での抗争も入れ、機船主もまた、たがいに喰いつぶしあつて没落していく資本の姿をかいた。そして浦戸湾を巡る航船にのり高知市へ魚の行商にでかける貧しい漁村の女たちを、高知の風俗、風景を背景にかきあげていった新鋭作家の力量をみせる作品だった。

『文学案内』は二年たらずの間に、ゴリキイ、魯迅たちの死を悼む特集、朝鮮の「プロレタリア作家李箕永の小説「故郷」の訳載をはじめなど図太い編輯(へんしゅう)をした。朝鮮・台湾・中国新鋭作家集などによる作品紹介も「文学案内」の本領ともいべきだった。

27歳で獄死した尹東柱

ユン・ドンジュ

去る2月18日、筆者は、

である。

京都市の同志社大学今出川キャンパスに行ってきた。ここで開催された幕末史に関するシンポジウムに参加することがその目的だが、同キャンパス内の一つの石碑があることをその直前に知った。京都留学中に治安維持法違反の疑いで逮捕され、1945年に27歳で獄死した韓国の詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)を追悼した詩碑



同志社大学今出川キャンパスにある尹東柱の詩碑

「尹東柱を偲ぶ会」と「同志社コリア同窓会」が毎年、尹の命日(2月16日)に合わせて献花式と講演会を開催してきたとのこと。コロナ禍のため2020年を最後に講演会は見合わせていたが、今年3年ぶりに実施したという。

また、「朝日新聞デジタル」2月17日付には、宇治市にある尹の記念



碑前で有志約35人が追悼式をしたとも報じられていた。つまり、尹の記念碑は京都市と宇治市の2か所に存在し、どちらでも追悼行事が開かれている。宇治市の碑は、尹が逮捕される前に学友とともにこの地をハイキングし、宇治川の吊り橋で仲間と撮った写真があることから、彼の生きた証を残すため、2017年に市民らの手によって建立されたという。

尹は1942年に日本に渡り、立教大や同志社大で学んだ経歴を持つ。だが、ハングルで詩を書いたことで、韓国の独立運動に関わった疑いをかけられ、同志社大在学中に治安維持法違反の疑いで

逮捕。1944年に、懲役2年の刑を受けた。そして日本の敗戦、すわなち韓国の解放を半年後に控えた1945年2月16日、福岡刑務所で獄死する。まさに、日本帝国主義、治安維持法の犠牲者であった。

なお、尹の記事を他に探してみたところ、「韓国放送公社(KBS)」「日本語版2月28日付に興味深い記事があった。韓国の国家報勲処(国務総理室)が、同月27日、「三・一独立運動」の日を記念し、韓国の独立運動家の白黒写真をAI(人工知能)技術でカラー化したというものだ。同機関によれば、これらの写真をまとめた映像を、4月11日までソウルの大韓民国歴史博物館の外壁に設置された大型電光掲示板に表示するという。

今回、その対象となった独立運動家は、安重根(アン・ジュンゴン)等の15名で、尹もその一人だ。この報道は、「聯合ニュース」2

月27付でも掲載され、本記事では尹の肖像を確認できる。まだ少年の面影が残るこの青年が、不当に逮捕され、刑務所の中で短い人生を終えたかと思うと、愚かな日本帝国主義への怒りが湧いてくるのではないか。

尹同様に「治安維持法」によって若くして命を奪われた詩人「といえば、高知の榎村浩がいる。榎村は、日本帝国主義の被害を受けている韓国や中国の人々に心寄せ、「間島パルチザンの歌」でそれを表現した。「間島」とは満州にあった朝鮮民族の居住地のことだ。「パルチザン」とは、占領軍に対してレジスタンス活動をする遊撃隊のことをいう。日本軍の侵略に立ち向かう人々を描くことは当時命がけのことであったが、榎村はペンの力で暴走した権力に立ち向かったのである。そして、尹とほぼ同じ26歳で、その生涯を終えた。

〈4面につづく〉

このように尹と横村には色々共通点があり、さらに、間島は尹の故郷でもある。また、尹の在学した京都は、治安維持法に反対した労農党代議士・山本宣治の出身地でもある。「京都民報Web」2022年5月28日付によれば、山本の遺品の中に在

京都朝鮮留學生学友会が1926年に発行した『学潮』があり、ここに尹に朝鮮語を教えた先生の文章、尹が憧れた詩人の詩が掲載されているという。近いうちに、尹東柱と横村浩、そして山本宣治の三者を何らかの形でコラボする企画を実施できないものであろうか。(森本琢磨)

【参考資料】

「聯合ニュース」2023年2月4日付「詩人尹東柱のぶ献花式」

「聯合ニュース」2023年2月27日付「カラー写真でよみがえる独立運動家の姿」

「朝日新聞デジタル」2月

17日付「韓国の詩人尹東柱の命日に集う」

「KBS日本語版」2023年2月28日「独立運動家の白鷺写真 AIでカラー化」

○女性部の広場

中心軸はぶれずに

原稿執筆を引き受けたものの、何をテーマに書こうかと迷いました。自己紹介にします。

私が日本共産党に入党したのは、高知大学1回生の時。父親が教員だったので4月入ると忙しいからと、3月31日に高知に引越してきました。10日の入学式まで時間があ

「京都民報Web」2022年5月28日付「尹東柱が歩いた道たどる 宇治市記念碑建立委がハイキング企画／山宣資料館も訪問」

の中で、民青同盟に出会いました。今、日本共産党高知県委員長をされている春名直章さんに誘われました。当時、自己肯定感が低く、もともと人として未来の教師として成長したいと強く思っていた私は、仲間とともに成長できると感じ加盟しました。

サークルは、全国障害者問題研究会高知学生サークル「ねっこ」に入りました。大学の講義だけでなく、サークルに自主ゼミにと、障害児教育や社会学などについて学びました。同じ年の7月15日には、日本共産党に入党しました。学生自治会副委



藤木真由美さん

員長、新聞会副編集長、日本共産党高知大学教育学部支部長などを務めました。その頃、活動仲間は私のことを『不屈』の人と呼んでいました。人生で落ち込んだり、迷ったり、波瀾万丈にたくさんのことを経験しましたが、中心軸はぶれずにきたと思います。

2月幹事会報告

会費など未納の方は入金を

や特別支援学校で障害児教育ひと筋に歩んできました。産育休の時期以外はずっと教職員組合役員をしてきました。定年退職して、ほっとする間もなく、予定候補者活動をしています。これまでとはまた随分違う世界に戸惑いもありますが、ぶれない軸で頑張ります。(藤木真由美)

☆同盟員 261名

千頭満さん、浜田喜世子さんが逝去されました。ご冥福をお祈りします。

☆署名

(個人) 335筆

(団体) 2筆

※集会で署名を集める

4月幹事会

日時 4月12日(水) 11時

場所 平和資料館 草の家

事とします。

☆「伊藤千代子」会計報告

☆財政
会費、書籍、年賀広告、募金の中央上納を年度内に入金します。

未納の方は入金をお願いします。

☆女性部・青年部

○編集後記

桜の開花が例年より早まり、まさに春らんまん。

4月から始まる連続テレビ小説「らんまん」が楽しみですね。(M)